

新鹿島市民会館（仮称）建設 基本設計・実施設計業務

基本設計図書（案） 概要版

平成31年3月

鹿 島 市

有限会社ナスカ

内容

- 0 1 設計主旨
- 0 2 配置計画
- 0 3 平面計画
- 0 4 断面計画
- 0 5 ホール部門計画
- 0 6 外装デザイン計画
- 0 7 内装デザイン計画
- ★ 外観・内観イメージ図

市民が日常的に集い、鹿島の地域文化創造の核となる「まちの晴れ舞台」をつくる

敷地は、多良岳山系の豊かな水を象徴する中川に面し、鹿島にこれから生まれる新たなアイデンティティを形成する大きな可能性をもちます。

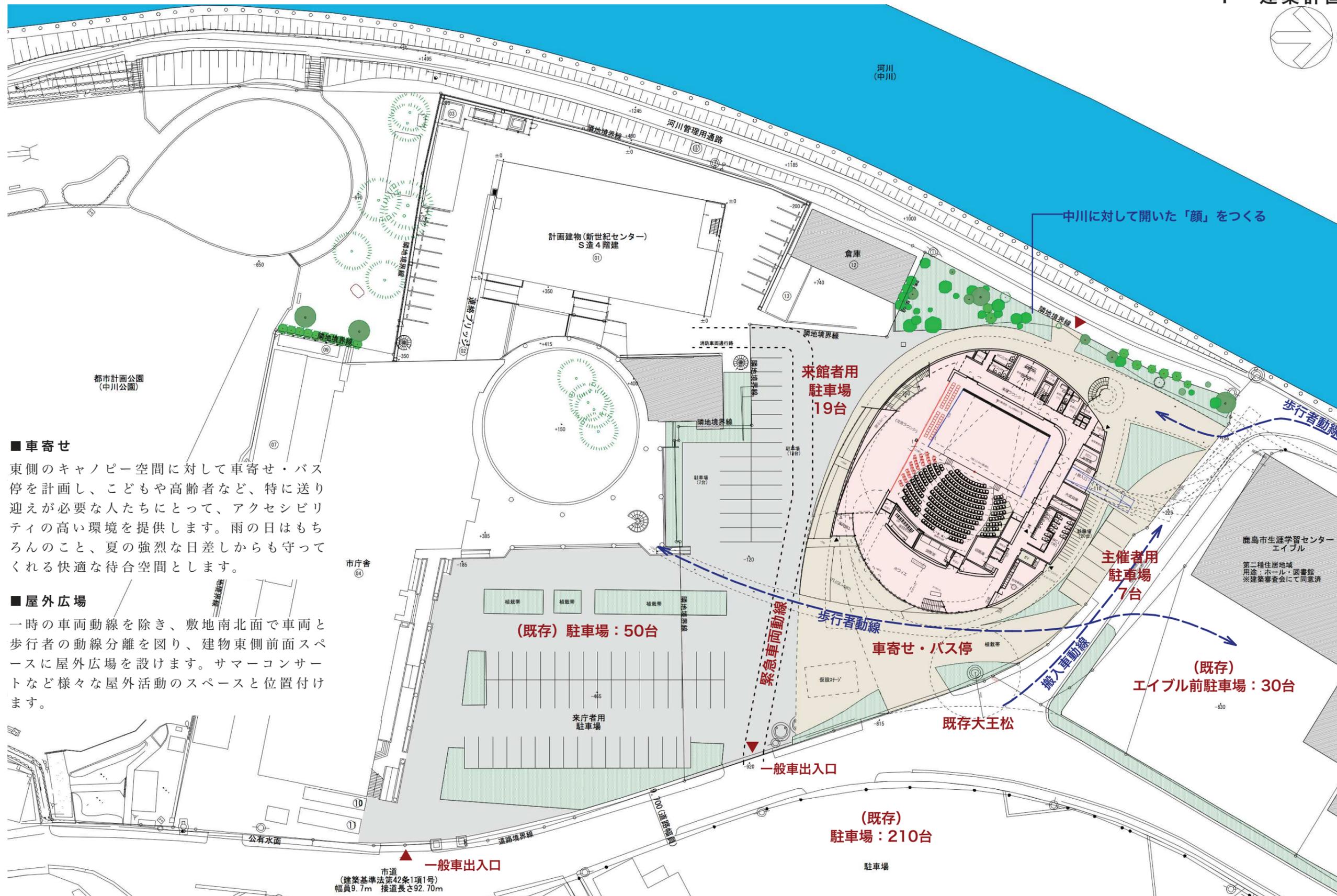
中川をはさんだ位置にある肥前鹿島駅へと至る中川エリアとの空間的連続性を考慮し、市街地の活性化が求められるこの地区にとって、賑わいのある市民の日常的な交流の核となり、文化活動を通じてより魅力的で豊かな「街」をつくるきっかけをつくり出します。醸造文化のまち鹿島が、市民文化を醸成するまち鹿島としての新しい顔となるよう、新鹿島市民会館(仮称)は、歴史的な鹿島の装いを纏いながら、新しい地域文化創造の拠点となる「まちの晴れ舞台」を目指します。



2階ホワイエ空間は、練習の様子を垣間見ることができ、市民の交流の場となる



中川沿いの遊歩道と対岸を望む新市民会館



■ 車寄せ

東側のキャノピー空間に対して車寄せ・バス停を計画し、こどもや高齢者など、特に送り迎えが必要な人たちにとって、アクセシビリティの高い環境を提供します。雨の日はもちろんのこと、夏の強烈な日差しからも守ってくれる快適な待合空間とします。

■ 屋外広場

一時の車両動線を除き、敷地南北面で車両と歩行者の動線分離を図り、建物東側前面スペースに屋外広場を設けます。サマーコンサートなど様々な屋外活動のスペースと位置付けます。

03. 平面計画

I 建築計画

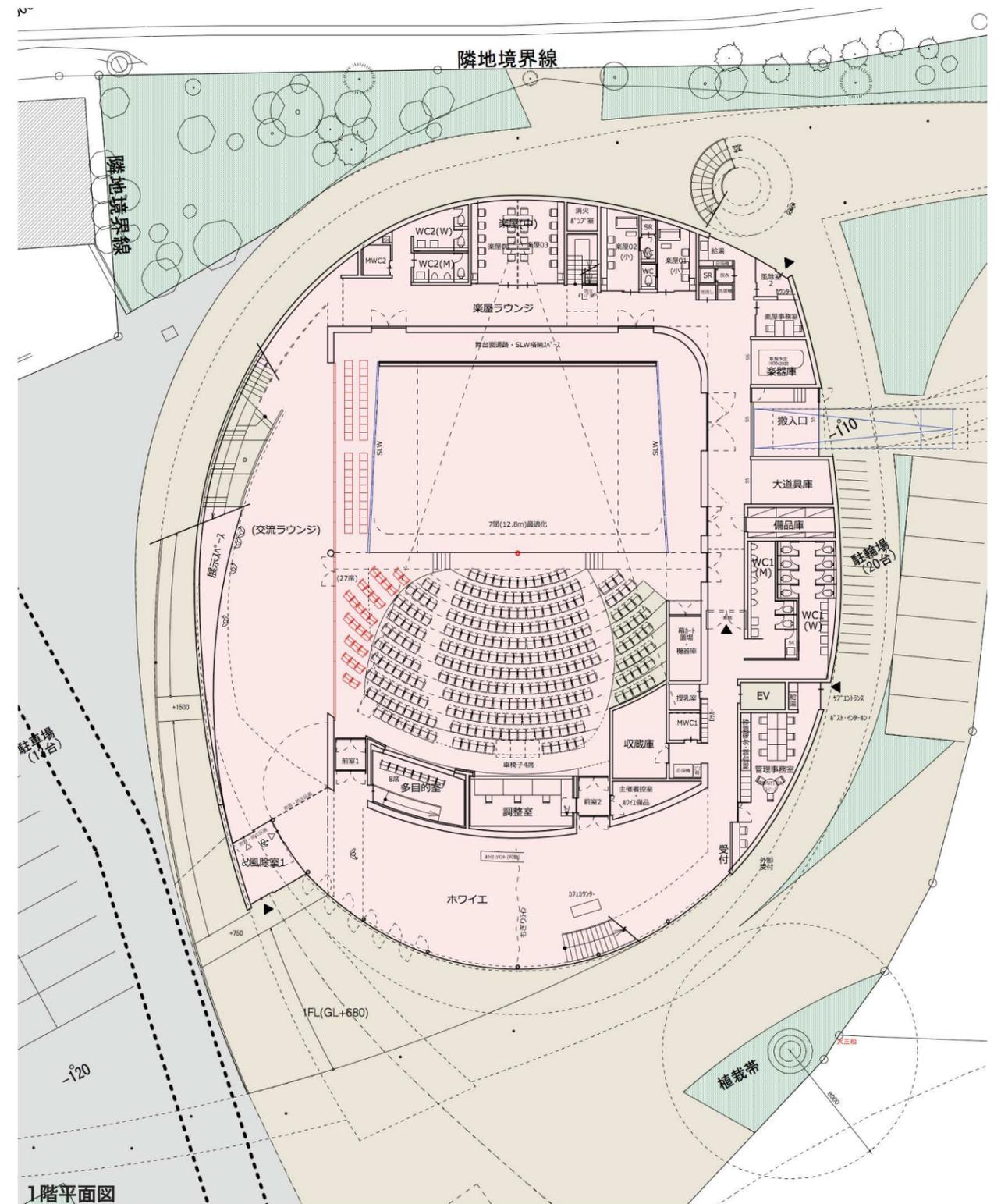
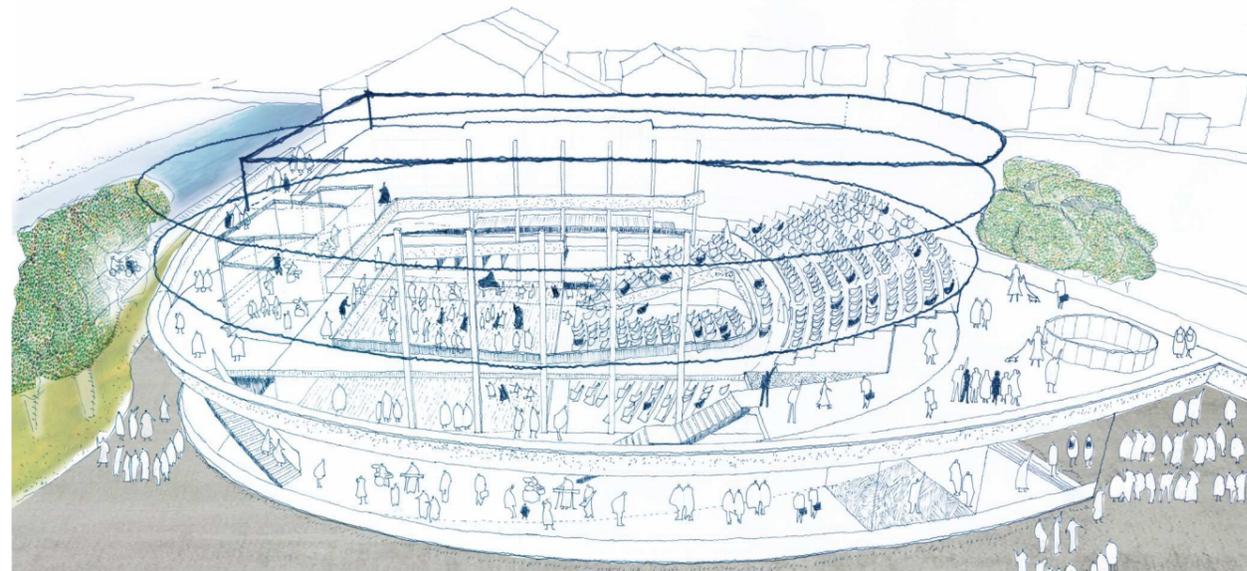
01 客席側と舞台側がループ状につながるユニークなホール

現市民会館では市民による発表会がたくさん開催され、今後ホールの利用率を高めていく上で、子どもたちや中高生、大学生など若者を中心とした音楽やダンスの発表会・コンクールなどにむしろ重点をおいたホールとする考え方があると思います。近隣のホールと競合せず、他にない特徴を持たせることができます。

プロのコンサートや演劇鑑賞と異なり、観客自らが次の発表者となり、出演後にはまた客席に戻るといった、客席と舞台を往来する人の動線を想定します。ホワイエから楽屋ゾーンへ、舞台から「もみあげ席、ギャラリー席」にループ状につながるホール内外の空間は、演者にも観客にもなり得る市民にとって、楽しくかつ効率よく使えるものとなります。ループはホール内だけでなく、ホール外にも連続し、1階北東側には楽屋や倉庫群を置いてエイブルと連携利用も図ります。東側にはメインホワイエ、南側に交流ラウンジを置きます。2階西側には会議室、練習室を配置し、日常的な市民利用のほか、発表会の出演者が練習にも使えます。川に面する西ホワイエ空間は、エイブルや市庁舎をつなぐ外部のルーフテラスにつながります。動線空間と共用空間を形にした新市民会館の建築は、エイブルから市役所まで敷地全体をひとつながりの文化施設として使えることを体現します。

02 空間や機能を適切に共有し、多角的に使いこなす

『鹿島市民会館改築計画の再構築に関わるデザイン研究』の過程で削らざるを得なかった楽屋や会議室などのいくつかの機能を、適切なタイムシェアリングにより多角的に活用することで、復活させることができます。2階西ホワイエ空間は、防音仕様のガラス張りの練習室とすることでホール使用時にはリハーサル室や流動的な楽屋空間となり、通常時には市民に開放し、練習室や会議室として単独に利用することができます。ホワイエを利用する人が思いがけず練習風景を見ることができ、活動に楽しみが生まれ、さらなる市民の交流の場を生み出すことにつながります。また、1階でも楽屋群を西側に配置することで、エイブルでの大きなイベント時には、控え室や楽屋等としての連携利用も可能です。ホールは1階南側を大きく開放することで、ロビーと一体的に使えたり、舞台部分だけを使ったりと、多様な使い方を可能にします。



1階平面図

03 優れた鑑賞空間と音響設備

ホールはシューボックス型を基本とし、天井を高くすることで豊富な初期反射音を確保し、音響シミュレーションで性能を検証した上で、生音のコンサートに適した音響空間とします。また、もみ上げ席の手すり壁やギャラリーを有効な反射面とすることで、反射音を客席に届ける計画とします。

講演会等の催し物の際には、舞台幕を設置し適切に響きを抑えることで、スピーチの明瞭さを確保し、多様な利用に対応します。

劇場は、出演者や多くの市民と感動を共有し体験することが大切ですので、均質性と多様性が同時にある空間を実現します。客席は750席確保し、さらに舞台周囲にギャラリー席をつくり、多様な角度から舞台を鑑賞でき、観客の好奇心を掻き立てる計画とします。また、円弧配列とした客席により、演者と観客の関係だけでなく、観客同士が一体感を得られるホールとします。

また、練習室等は防音に配慮した構造とし、開口部に防音建具を設置することで、ホールと周辺諸室との遮音性能に配慮します。

04 トイレ器具数計画

・トイレの器具数は、佐賀県及び鹿島市に基準が無いので、東京都が定めている「興行場の構造設備及び衛生措置の基準等に関する条例施行規則」に準じて計画する。

	女子	男子		合計	洗面器	
		小便器	大便器		女子	男子
1. 興行場の構造設備及び衛生措置の基準等に関する条例施行規則（東京都）※1	19	14	4	37	-	-

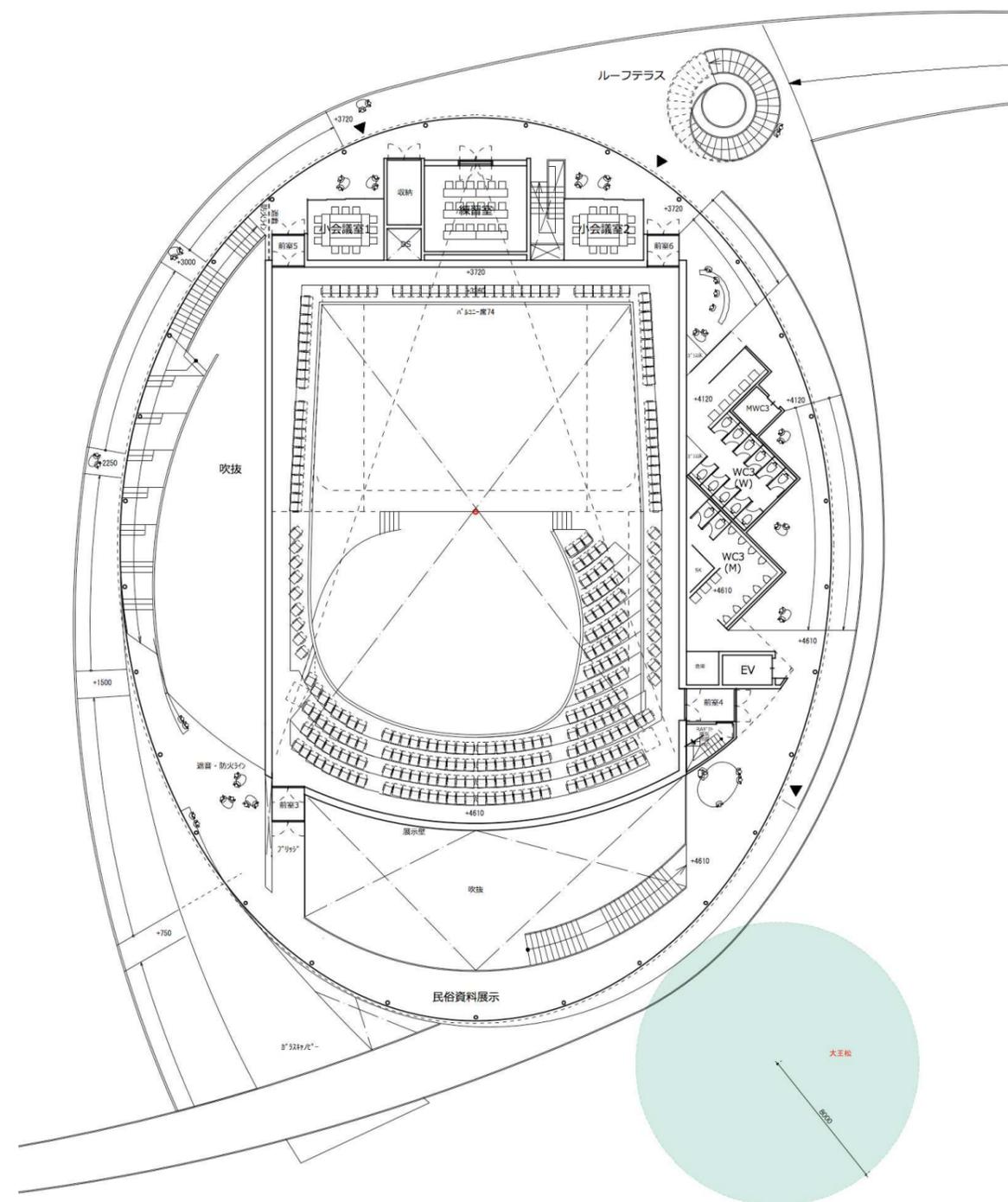
※佐賀県の興行場法には明確な数量の基準がないため、東京都の興行場法を準用

□今回計画している新鹿島市民会館（仮称）の衛生器具数

女子トイレ 便器数：19個、（洗面器：10個）
 男子トイレ 便器数（小）：14個、便器数（大）：4個（洗面器：5個）
 多目的トイレ 便器数：2個（洗面器：2個）

05 サイン計画

- ・サインシステムや色彩計画などに配慮し、誰もがスピーディに目的地に行くことができる、わかりやすい誘導計画とします。
- ・サインは、ピクト絵文字を主に採用し、表示の大きさ・配色・コントラストを工夫してわかりやすく表現します。
- ・火災、地震時にも安全に避難できるように、音声や視覚に直接訴えるサイン設置を検討します。
- ・周辺環境や景観に配慮しつつ、市民やその他の利用者にとって、敷地外からでもわかりやすい案内サインや誘導サインの検討を行います。



2階平面図

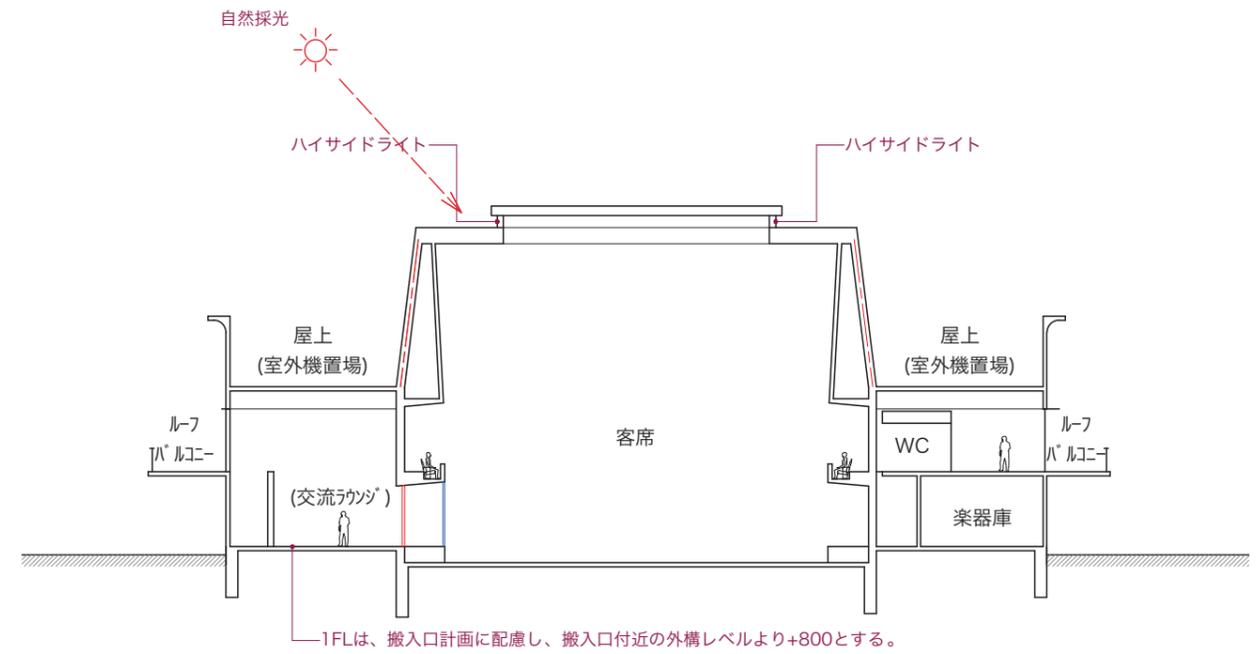
04.断面計画

01 周辺への圧迫感を軽減する断面計画

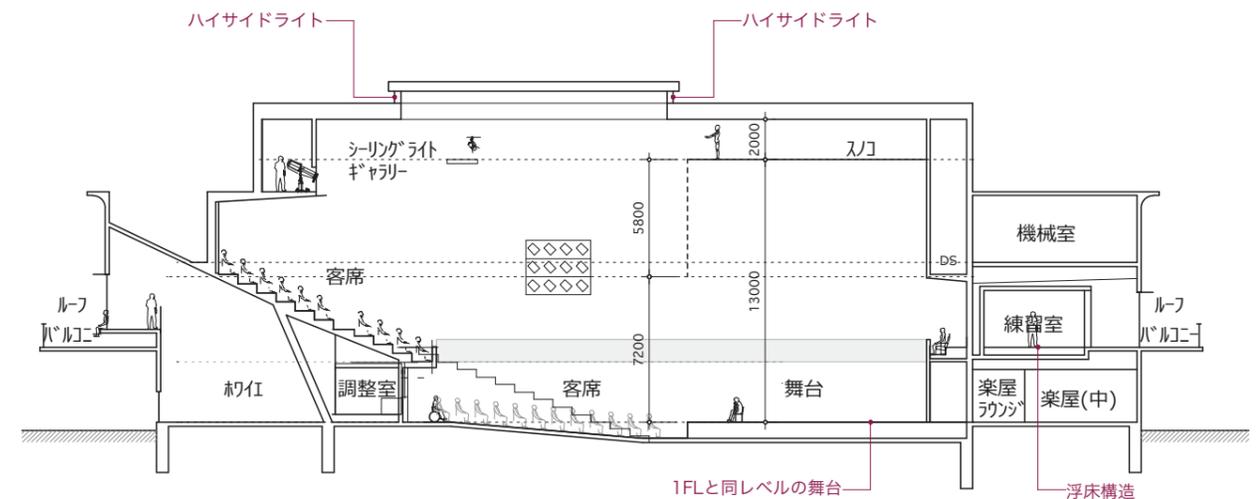
- ・ 周囲環境への圧迫感を軽減するために、ルーフバルコニーの庇～楕円の平面形状をした屋上反り壁庇～ホール壁とGLレベルから段階的にセットバックしていく断面計画を図ります。
- ・ 利用者の移動に対して障壁の少ない空間とします。2階へのアクセスはEVのみならず、外部スロープからもアクセス可能な計画を図ります。
- ・ ホール空間中央には構造体を兼ねたハイサイドライトを設け、日常は明るく開放的な空間となるように設えます。
- ・ 杭を用いて、もしもの地盤の液状化や沈下へ備え、利用者にとって安心できる施設とします。

02 ユニバーサルデザイン

- ・ バリアフリー新法の「建築物移動等円滑化誘導基準」及び「佐賀県福祉のまちづくり条例」を満たすよう計画します。
- ・ 多目的トイレは、オストメイト対応にするほか、乳幼児連れの利用者にも配慮した計画とします。
- ・ 災害時においても、お年寄りや体の不自由な方が、安全でわかりやすく避難できる計画とします。



ホールとして拡張利用できる交流ラウンジ（プロポーザル提案時）





▲プロポーザル時のホール内観イメージ

市民が最大限に活用できる舞台と客席の劇場空間

現在の劇場・ホール施設の受注状況と微増する建設工事費を分析すると、20億円以内で750席～800席規模の高性能な多目的ホールを建設するのは厳しい状況です。厳しい建設事情の中では、本ホールは誰のためのもので、その主要な用途は何かを充分考慮することが重要です。本施設は市民のためのホールとして観劇はもとより、市民の創造活動の発表の場であり、吹奏楽の発表や学生演劇、市民ミュージカル等が主な用途と捉え適正な舞台や舞台特殊設備計画を行います。なんでもできる最大公約数ではなく、大切なものを掛け合わせる最小公倍数のホール施設計画こそ実現性が高いと考えます。

本施設は、市民の発表からプロの上演まで幅広く利用されます。講演会や会議、音楽利用ではフライズや大きな舞台袖は利用しません。また、舞台芸術に関しても演劇も一杯飾りの舞台美術が多く、映像設備を駆使して転換をすることが中規模客席では多いため、実質的には大きなフライズや舞台袖がなくても殆どの舞台芸術を含めた上演が可能です。想定建設費で十分なフライズや舞台袖を擁し、それに伴う大規模な舞台特殊設備を設けることは建設コストや維持管理の観点からも負担がとて大きいと考えられます。

舞台・客席を交流ラウンジに拡張することで多様性を実現する

舞台と客席の下手側を開放することで、交流ラウンジを舞台の拡張スペースとして利用することも、客席の拡張スペースとして利用することもできる機能共有空間とします。この構成により、大道具を使う演劇も上演可能になり、さらには客席を拡張して利用するなど、多様なホール使用を可能にします。また、ホール利用がないときは、この空間を小規模な第二ホールとして利用できるよう固定バトンや照明・音響の電源を確保します

01 「標準以上のホール機能を有すること」

～ホールとして講演会・音楽・演劇等のスタンダードな用途・機能を満たすこと～

- ① 標準以上の大きさの舞台空間を持ち、様々な用途で利用できる潜在性能を持たせる。
- ② 劇場としてのプロセニウム形式と、音楽ホールとしてのオープン形式を両立させる。
- ③ 多様な演出を実現する舞台特殊設備と拡張性のある電源や吊点等のインフラを整備する。

02 「進化する独自性のあるホール空間であること」

～舞台客席を拡張し多様な関係性を生み出し、鹿島オリジナルの事業を実現すること～

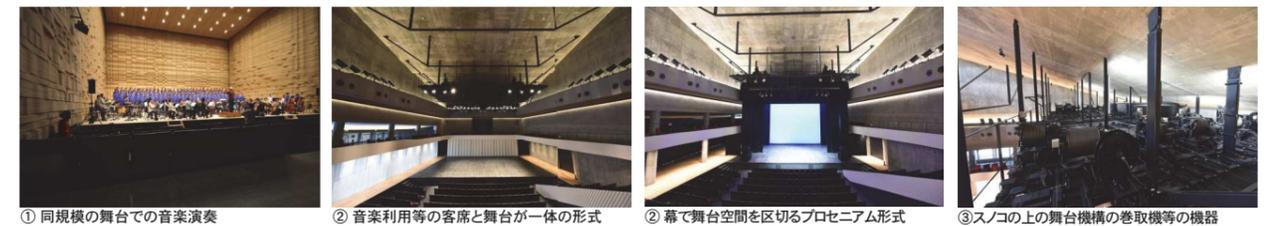
- ④ 交流ラウンジを舞台の拡張、客席の拡張として活用し、多様な舞台と客席の関係を創出する。
- ⑤ 舞台と客席の動線をホールに取り込んだ発見性のあるフェスティバルのようなホール空間とする。
- ⑥ 独自の魅力的な建築意匠・空間とし、市民の創造性を刺激し、快適な交流空間を創出する。

03 「施設全体が多様な催事・演出のホール空間となること」

～日常的な文化活動の一部となるハレ舞台(広場的な)をつくること～

- ⑦ 交流ラウンジを第2のホールと捉える等、共有スペースに積極的な意義を持たせる。
- ⑧ ホール、諸室や共用スペース等、大小様々な空間を提供し、市民の創造活動を支援する。
- ⑨ 客席・舞台ゾーンも表裏のない空間とし、日常的に全ての場所を最大限活用する。

▼参考イメージ



① 同規模の舞台での音楽演奏 ② 音楽利用等の客席と舞台が一体の形式 ③ 幕で舞台空間を区切るプロセニウム形式 ④ スノコの上の舞台機構の巻取機等の機器



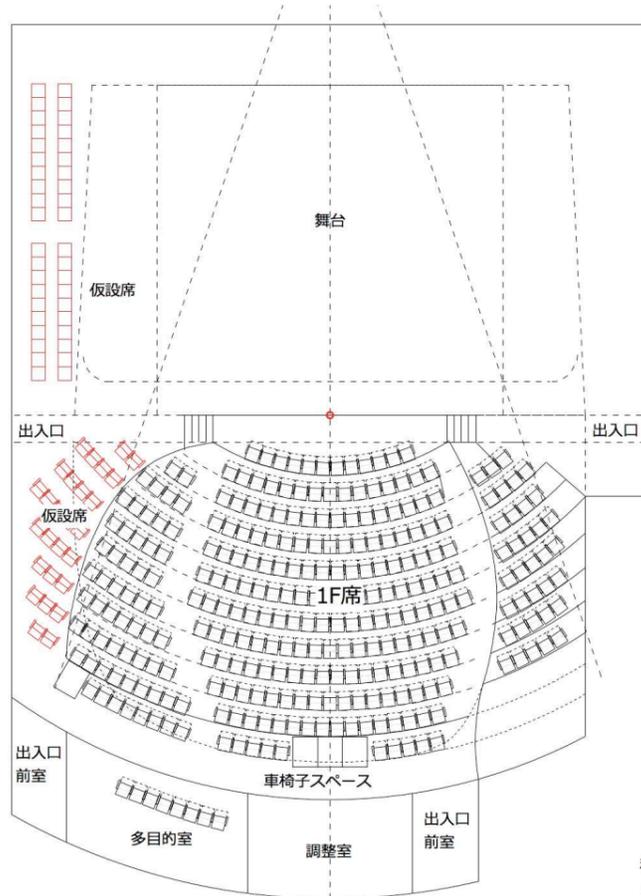
④ 下手花道空間を客席として拡張利用 ⑤ 動線空間が発見や交流を生み出す事例 ⑥ 独自性のあるホール空間の事例① ⑧ 独自性のあるホール空間の事例②



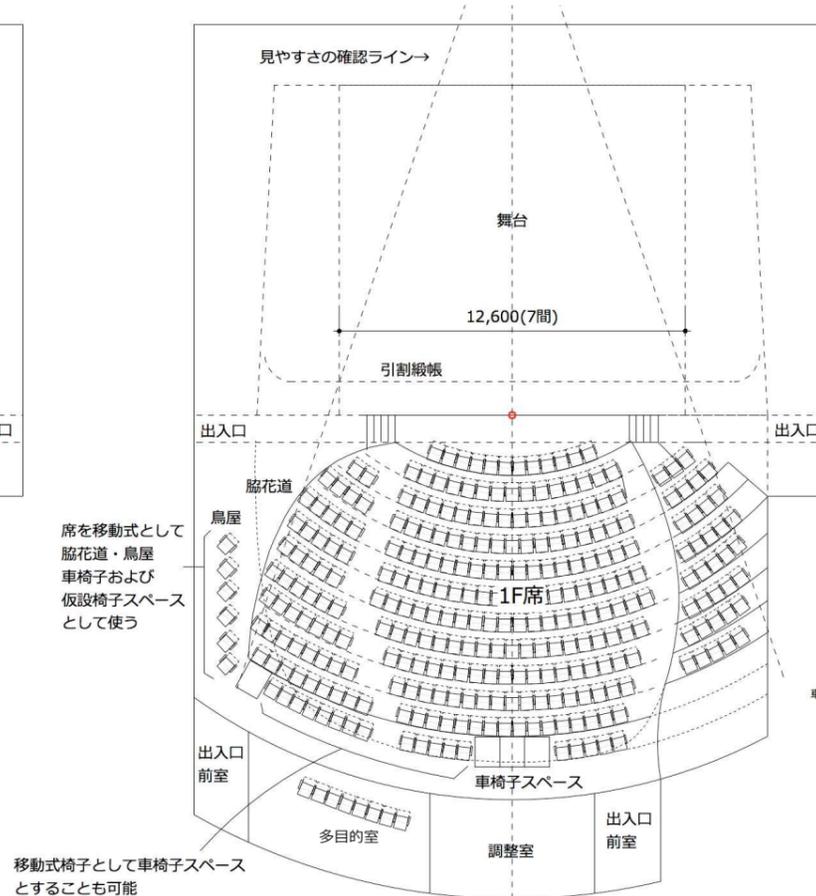
⑦ 魅力的な共用スペース、ロビー空間① ⑦ 魅力的な共用スペース、ロビー空間② ⑧ 階段を利用した市民活動の発表 ⑨ 明るい楽屋空間、表と同じ内装仕様

■ ホール平面計画

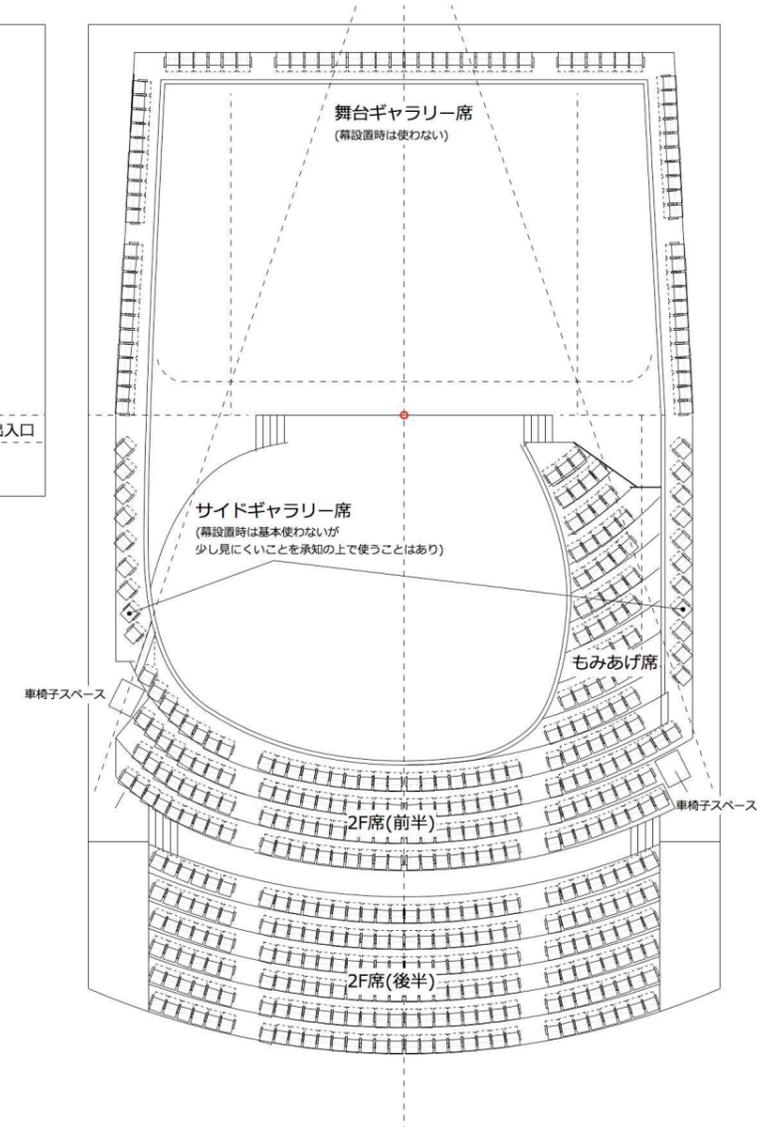
1階 仮設席配置パターン(主に集会など幕を設置しない場合)



1階 幕設置パターン



2階席



階	場所	固定席		計	仮設席	
		幕使用時	幕なし		脇花部	舞台側
1F~2F	1F(12列)	256		462		
	脇花道席(移動式)		6		27	40
	1~2F(もみあげ+2F前半4列)	188				
	車椅子スペース	4				
	多目的室	8				
	小計	456	6			
2F	2F(後半6列)	192		288		
	車椅子スペース	2				
	サイドギャラリー(客席側)		20			
	ギャラリー(舞台側)		74			
	小計	194	94			
	合計1	650	100			
	合計2		750		67	
	合計3			811		
備考	脇花道に仮設椅子を設置する場合は移動式6脚を外し仮設椅子を設置する					
	仮設椅子はスタッキングチェア程度を想定している。					
	車椅子スペースは県と市に数の基準がないが国交省基準(0.5~1%)がある					

席を移動式として脇花道・鳥屋車椅子および仮設椅子スペースとして使う

移動式椅子として車椅子スペースとすることも可能

検討事項

◇見やすさ

- ・見やすさを確認するための基準線を設定し、客席を極力その範囲内におさめるようにしまた、その外側の少し見にくいギャラリー席と区分した
- ・舞台に対する客席の向きについて舞台中心方向に向くような円弧配列とした
- ・1階席中央部分は緩い勾配なので席を千鳥配置にした

◇客席の配分

- ・1階席の奥行(列数)を減らしホワイエを大きくした
- ・1階からもみあげ、2階の前半部分をひとつながりの空間と考えて450席程度を配置した

◇脇花道・鳥屋

- 脇花道・鳥屋のような舞台拡張スペースとして、また、車椅子や仮設席として使うためのユーティリティスペースとして計画した

◇音響

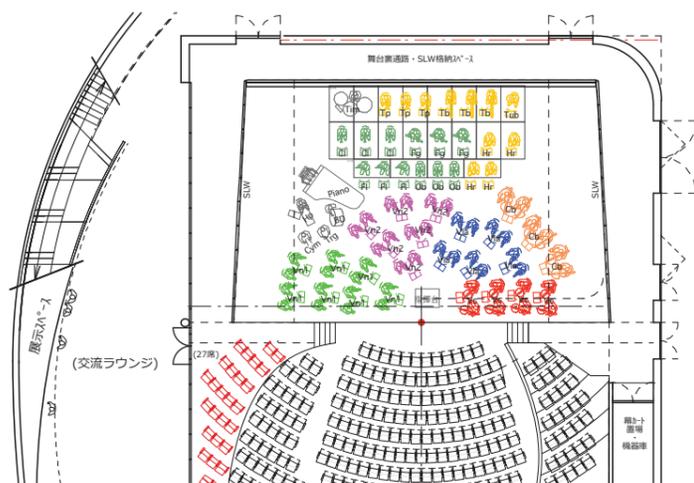
- 舞台ギャラリー席の腰壁についてフラッターエコー防止のため角度をつけた

◇車椅子スペース

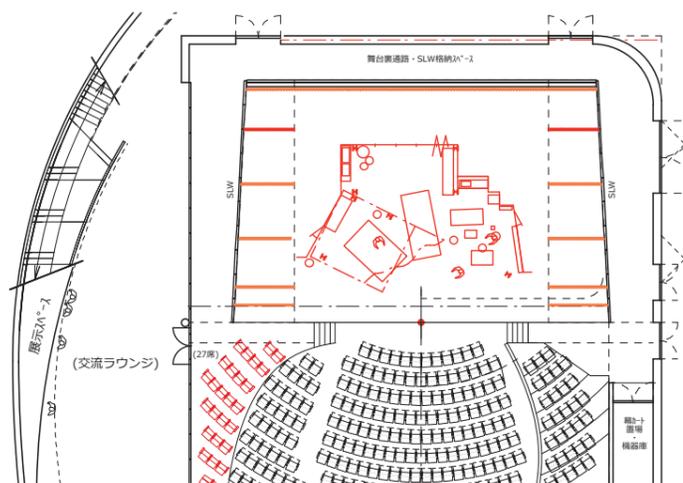
- 6席分(800×0.75%)を各所に分けて配置して、それ以上は1階の最後部席を移動式としたり、脇花道を使うことで対応すると考えた(参考 エイブレ小ホールでは車椅子スペースとして6席確保されている)

■ 様々なホール利用の可能性

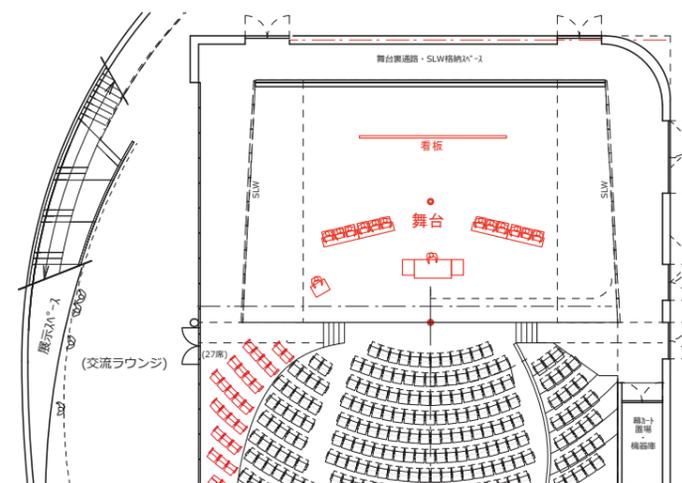
①音楽利用



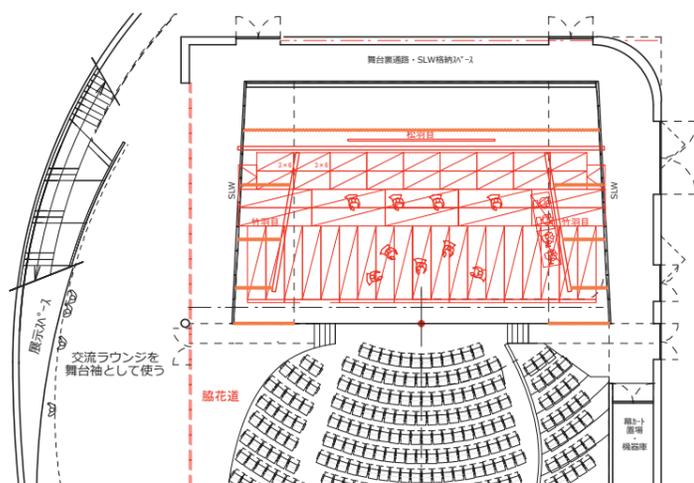
②一杯飾りの演劇利用



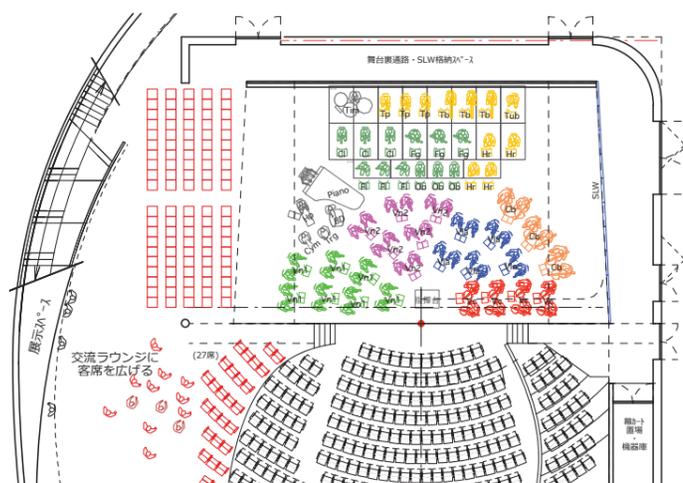
③講演会・式典利用



④日本舞踊等の伝統芸能利用

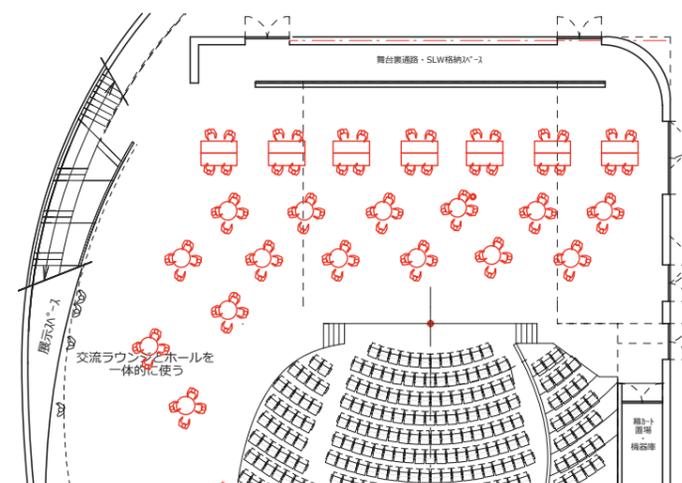


⑤音楽会や集会など下手側の壁を開放して利用



⑥日常の開放利用

(日常的な市民ロビー、勉強スペース、講習会、展覧会などへの活用)



01 音響計画の方針

本施設における音響計画は、ホール等において、次の音響条件が実現されることを目的に実施する。

- (1) 静けさ…使用目的に適した静けさが得られていること。(騒音防止計画)
 - ・外部の騒音が伝わらないこと。
 - ・施設内の室間の遮音性能が十分確保されており、隣接室からの騒音が十分小さいこと。
 - ・空調騒音等の設備騒音が小さいこと。
- (2) 良い響き…良い室内音響条件が得られること。(室内音響計画)
 - ・室内の響きが良好で、使用目的にあった適切な残響を有していること。
 - ・客席での音圧分布が一様であること。
 - ・エコー等の障害が生じないこと。

02 騒音防止計画

(1) 室内騒音の低減目標値

ホール等の機能を十分に生かすためには、それぞれの室の使用目的に適した静けさを確保することが重要である。表-1 に用途別の室内騒音の許容値を示す。各室の低減目標値を、次のように設定し、屋外および周辺室との遮音計画や設備騒音の防止計画を進める。

- ・ホール : NC-20~25
- ・交流ラウンジ : NC-20~25
- ・練習室 : NC-25~30
- ・会議室 : NC-30~35
- ・ホワイエ : NC-35~40

表-1 室内騒音許容値

NC	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~55
dB(A)	20	25	30	35	40	45	50	55	60
うるささ	無音感	非常に静か	静か	静か	普通のかましさ	騒音を感じる	騒音を感じない	騒音を感じない	騒音を感じない
会話・電話への影響	5m 離れてささやき声が聞こえる		10m 離れて会話可能		普通会話(3m 以内)		大声会話(3m)		
スタジオ	アナウンススタジオ	ラジオスタジオ	テレビスタジオ						
ホール・劇場	コンサートホール	多目的ホール	映画館	ホールロビー					
病院	聴力試験室	特別病室	手術室 病室	診察室	検査室				
ホテル		客室	宴会場						
住宅		寝室	応接室						
事務所ビル		重役室 大会議室	小会議室	一般事務室					
公共建築		美術館 博物館	図書閲覧室	室内スポーツ施設					
学校		音楽教室	講堂	普通教室					
教会			礼拝堂						

(2) 遮音計画

- ・練習室とホール、練習室と会議室の遮音性能の確保のため、練習室には防振遮音構造の採用を検討する。(図-1参照)
- ・練習室 ~ ホール 間の遮音性能 : 70~75 dB (500Hz)
- ・練習室 ~ 会議室 間の遮音性能 : 65~70 dB (500Hz)
- ・各室間の遮音性能の確保のため、ホール、交流ラウンジ、練習室、会議室、機械室など主要な室の壁は遮音壁とし、それに取りつく建具は防音建具とする。
- ・ホールと交流ラウンジ間の移動間仕切りは遮音仕様とする。
- ・屋外騒音の低減のため、ホール、交流ラウンジ、練習室の窓ガラスの遮音仕様を検討する。
- ・図-2に遮音性能に対する音源別の聞こえ方の主観的印象を示す。

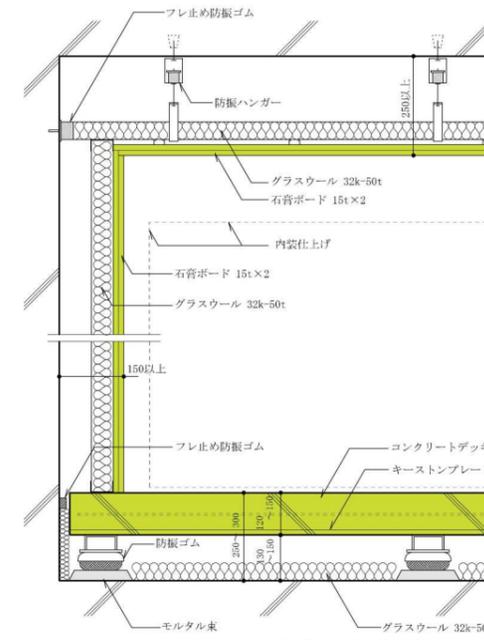


図-1 防振遮音構造 (参考図)

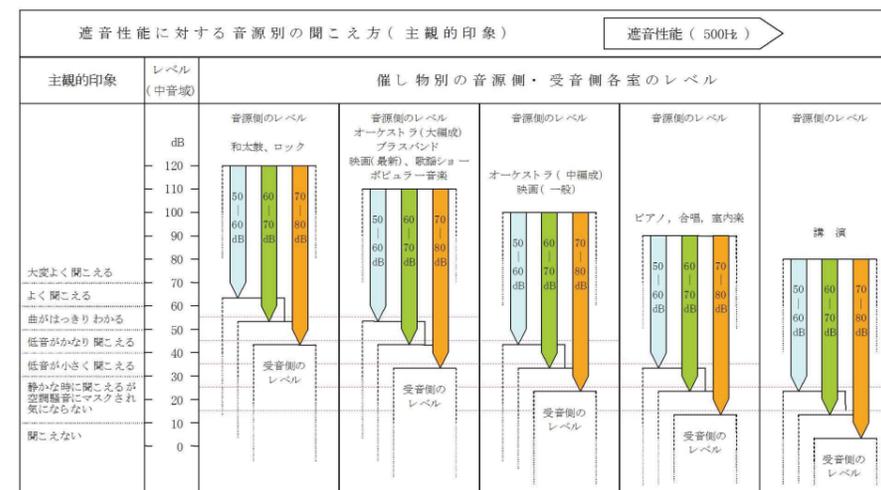


図-2 遮音性能に対する音源別の聞こえ方の主観的印象

(3) 設備騒音・振動の防止

- ・ホール等の設備系統については、消音器、消音エルボ等を設置し空調設備騒音の低減に努める。
- ・ダクト・配管によるクロストークを防止するため、系統の分離、区画、消音エルボの設置、遮音外装等を行う。
- ・防振遮音構造等へのダクト貫通はできるだけ少なくし、貫通する場合は防振遮音貫通処理を行う。
- ・騒音・振動源となり得るホール周辺の機器、ダクト、配管、変圧器、昇降設備は原則として防振支持を行う。
- ・排煙ダクトを介して屋外の騒音がホール内に伝搬しないよう、十分な数の消音エルボを設置する。

03 室内音響計画

室内音響に対する物理的な条件としては、初期反射音、側方反射音の確保、音圧分布、残響時間とその周波数特性、有害エコーの除去等がある。このための建築条件としては、室形状、室容積の確保、内装条件が関係しており、それぞれについて使用目的に適した条件を確保する必要がある。

(1) 室形状の検討

クラシックコンサートにおいて、次のような聴感的な印象が得られるのが理想である。

- ・舞台への親密感のある響き
- ・適度な音量感
- ・ホール全体が響いて音に包まれた感じの豊かな響き
- ・明瞭さと繊細さを兼ね備えた響き

これらの印象は、直接音到達後の早い時間（約0.1秒）に到達する初期反射音の時間的、空間的な構造に密接に関係している。反射音の到達時間は音速によって決まるため、初期反射音は室形状や寸法に密接に関係していることになる。

質の高い響きを実現するためには、初期反射音が客席全体に一樣に、時間的にバランスよく、様々な方向から到達することが必要である。これらを考慮し、音線法に基づくコンピュータ・シミュレーションの手法によって、基本的な室形状の検討を行いながら進める。

ホールにおいて、クラシックコンサート等の使用条件である舞台なしの状態での、現段階におけるコンピュータ・シミュレーションによる初期反射音分布の結果を図-3に示す。現段階での結果としては、音響的に良い結果が得られており、今後更に、室形状について詳細な検討を行いながら進める。

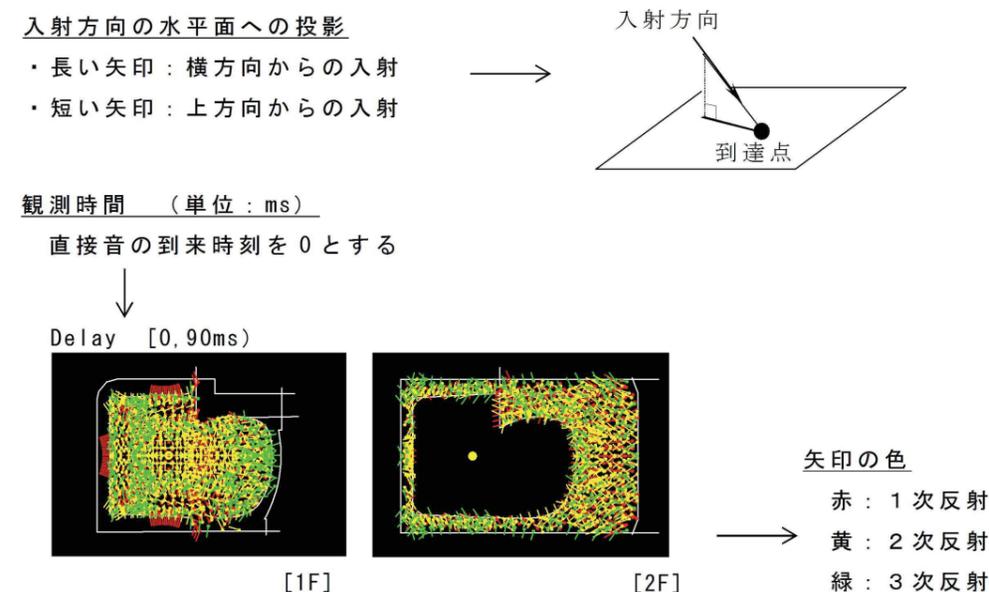


図-3 ホールの初期反射音分布（舞台幕なし）

(2) 残響時間の目標値

残響時間は室内の響きの長さを表す尺度で、図-4に示すように、用途別、室容積によって最適値が推奨されている。クラシックコンサートには長めの響きが、また、拡声装置を使用するポップス等のコンサートや、スピーチがメインとなる演劇や講演会に対しては短めの響きが適している。また、容積が大きくなるほど長めの残響時間が推奨されている。以下のように、ホールの残響時間の目標値を設定する。

《ホール》

- ・舞台幕なし : 1.6 ~ 2.0 秒 (500Hz、満席時)
- ・舞台幕あり : 1.2 ~ 1.6 秒 (500Hz、満席時)

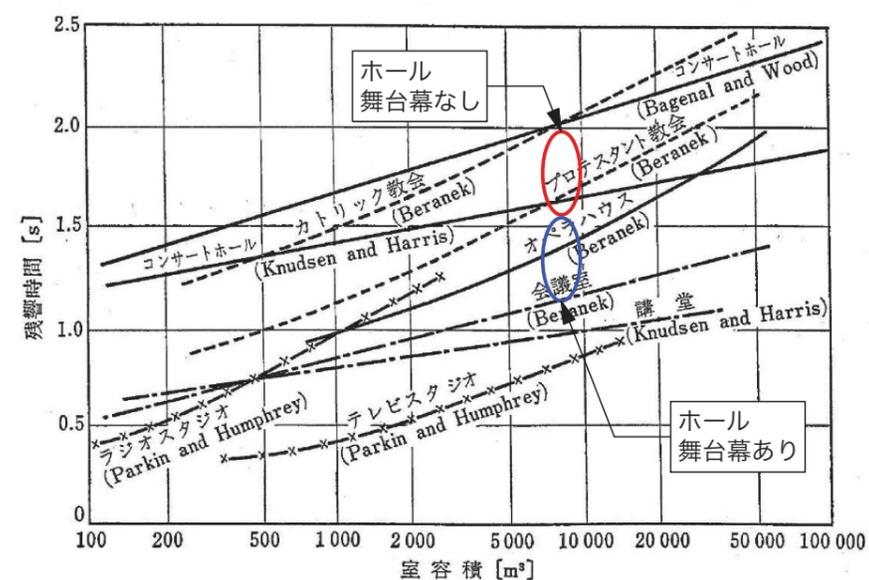


図-4 用途別の最適残響時間の推奨特性（中音域、着席時）

(3) 防音建具の目標値

遮音区画形成にあたり、開口部となる建具は下記等級仕様を目標とし計画する。

《 500Hz以上の遮音性能 》

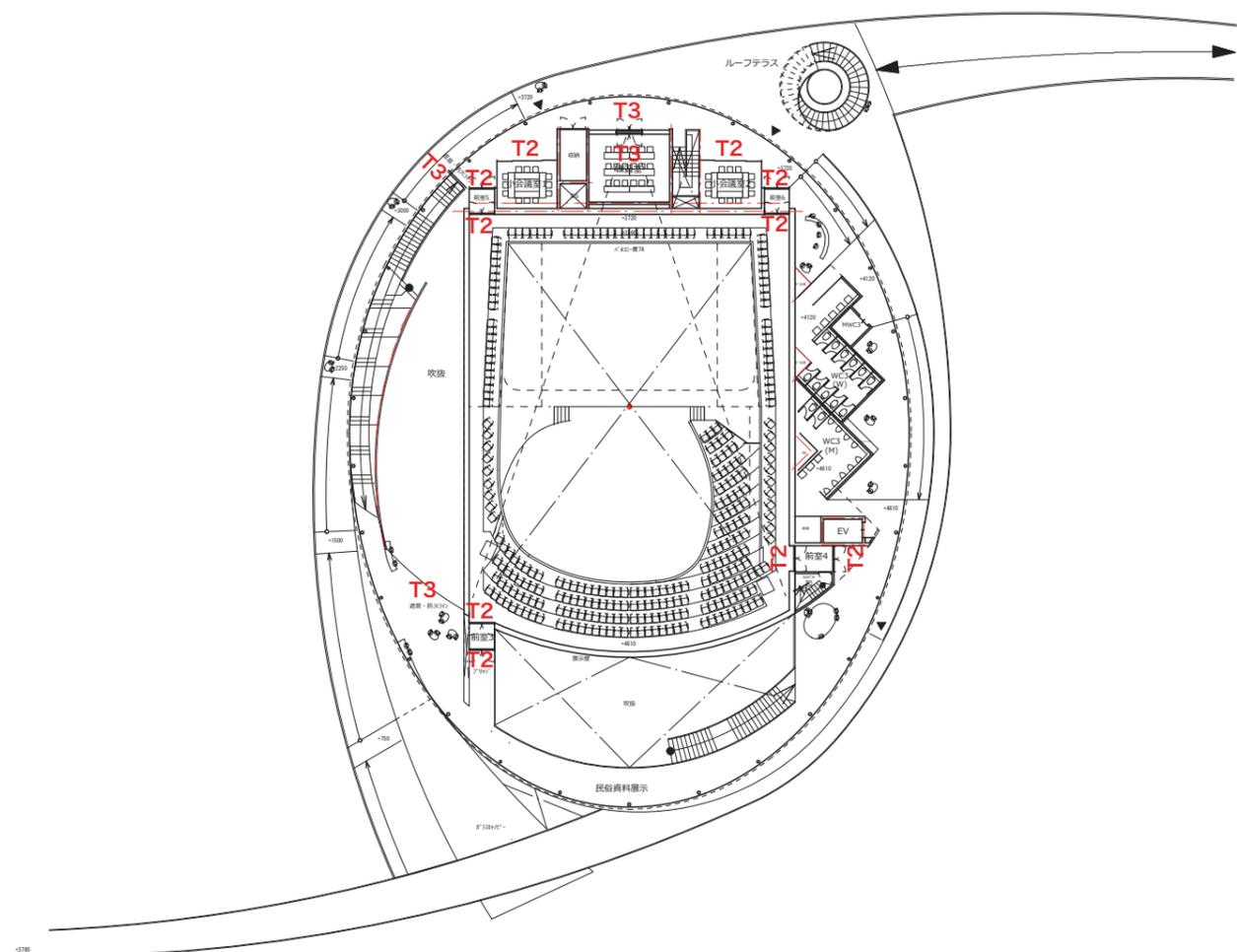
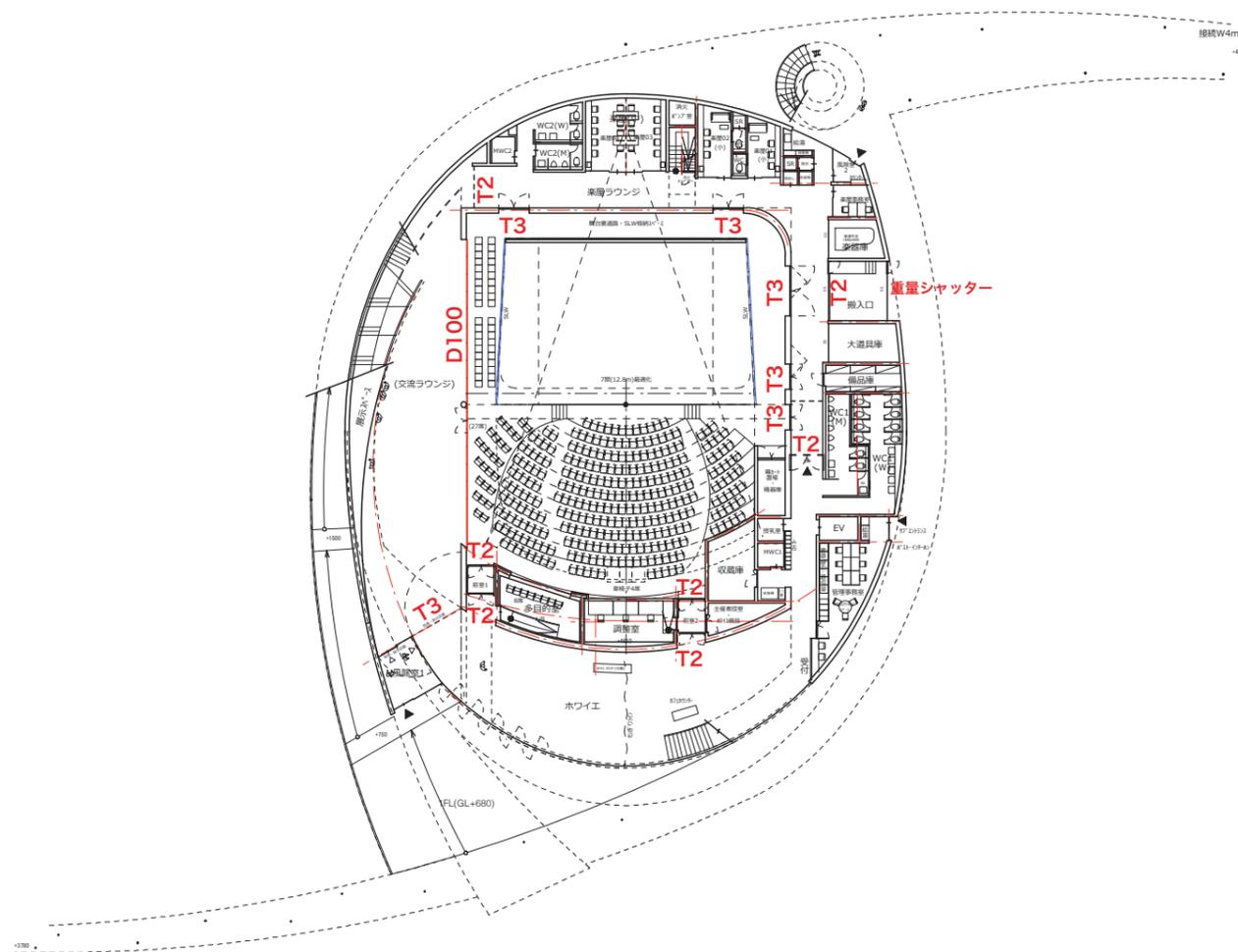
等級なし：15db程度

T1：25db以上

T2：30db以上

T3：35db以上

T4：40db以上

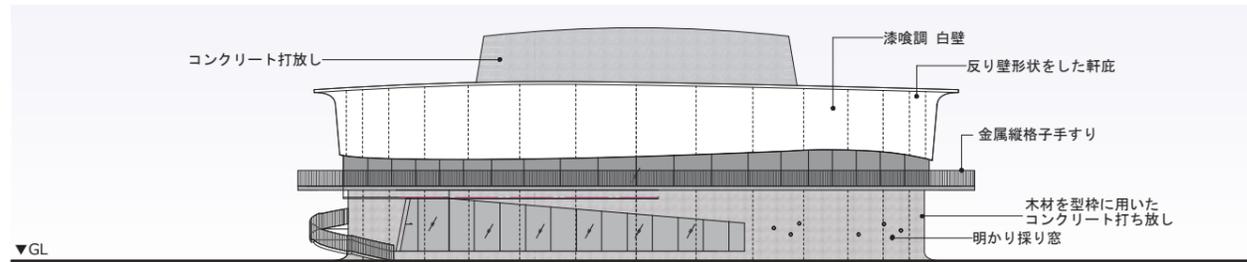
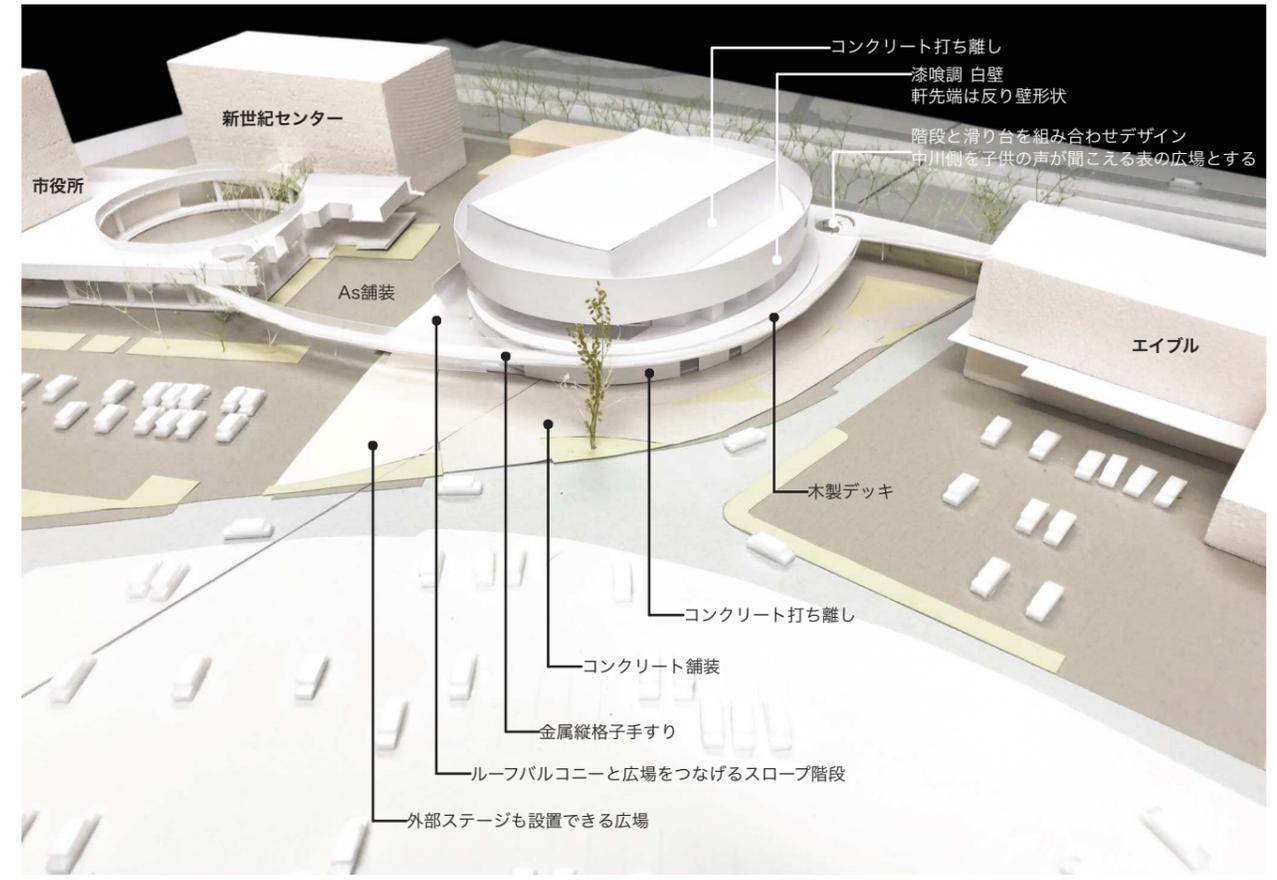
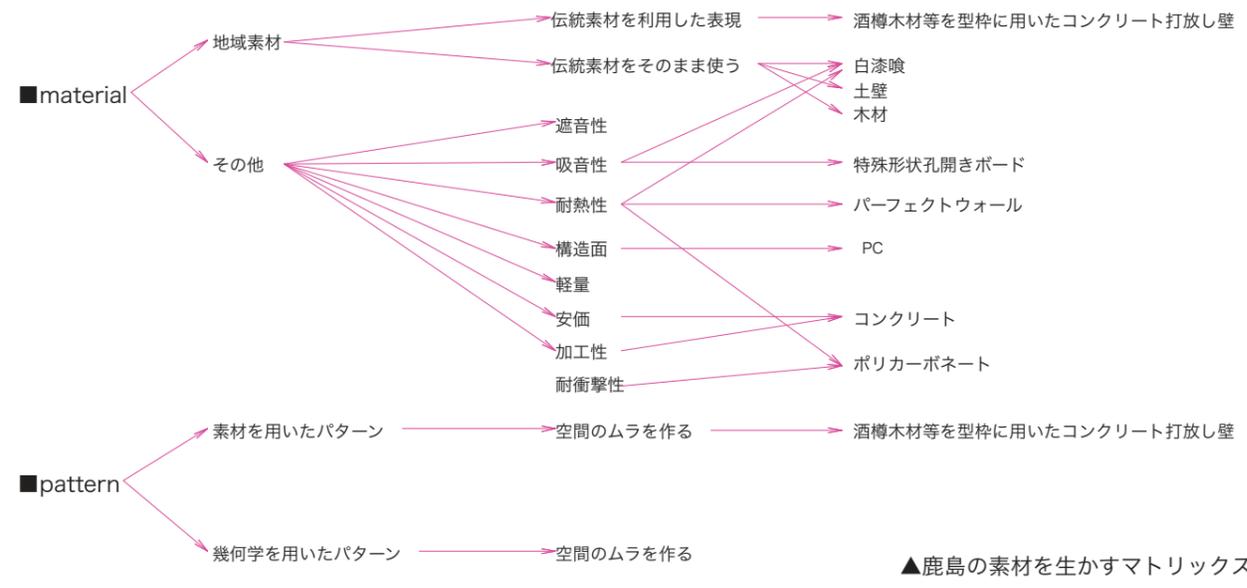


06.外装デザイン計画

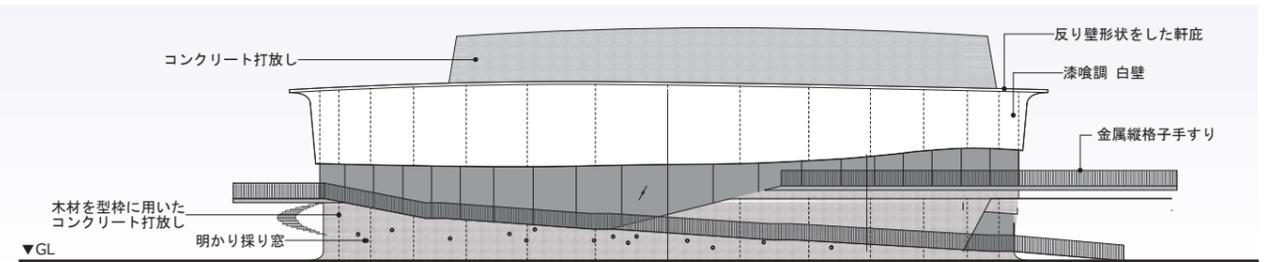
I 建築計画

■鹿島らしさを反映した、市民に愛される建築

鹿島市には、多良岳山系から有明海へと連なる豊かな自然や、酒蔵のある伝建地区など大切にすべき豊富な歴史資源があります。2階東ホワイエと一体となった民俗資料館は、こうした風土に市民が日頃から触れることができる場所となります。鹿島に伝わる特徴的な左官壁などの意匠を随所に再現することにより、市民が鹿島の歴史を身近に感じることができ、長く愛される建築を目指します。



東面立面



南面立面

■素材



▲肥前浜宿の建物構成



▲反り壁形状をした軒庇



▲木材を型枠に用いたコンクリート



▲金属 縦格子手すり



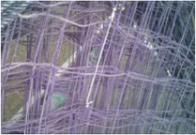
▲明かり採り窓



▲樹木

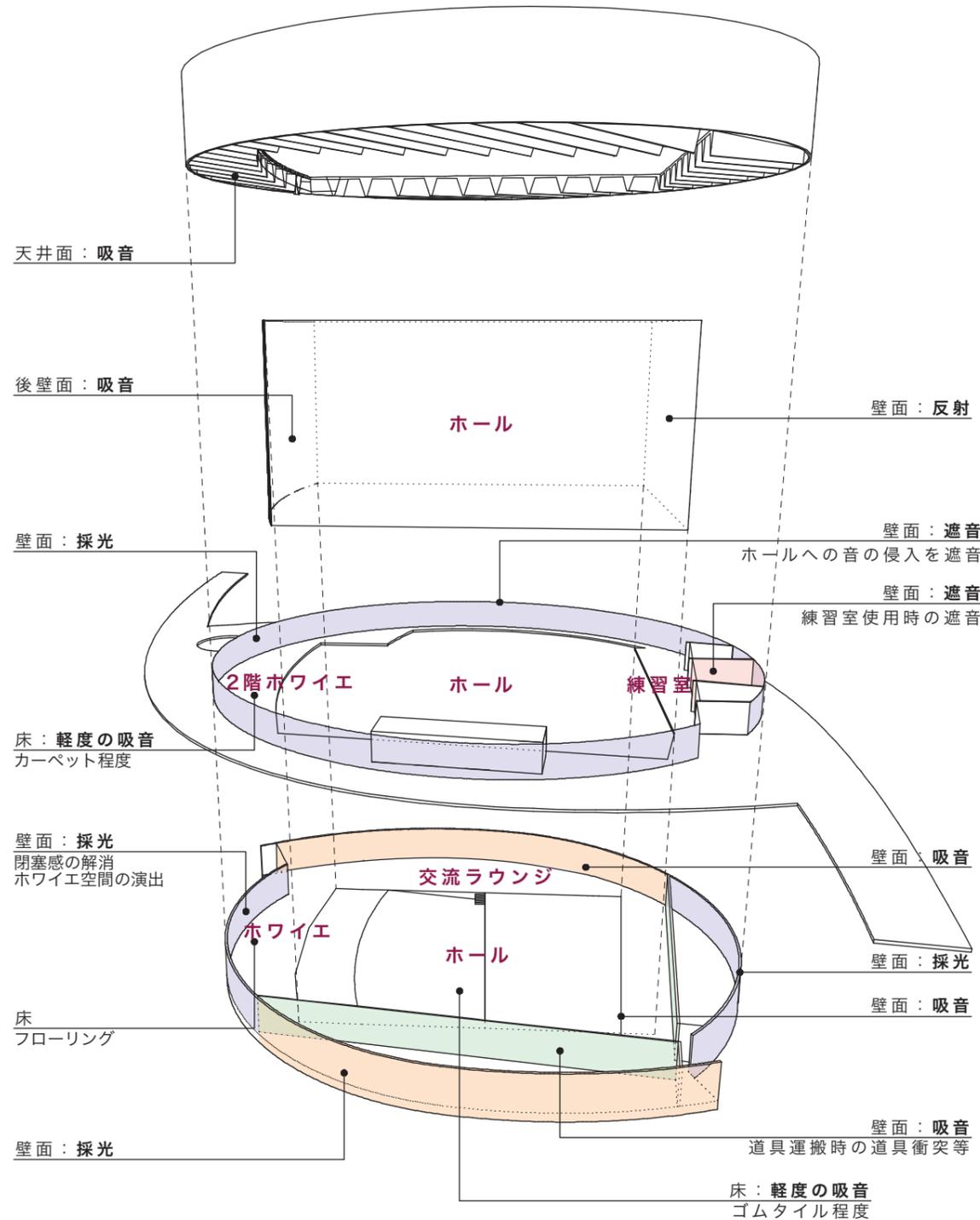
■ 鹿島の素材・技術

分類	名称 (素材)	イメージ	特性			
			性能	形態・模様	質感	色味
material	木 (杉・檜・楠・桐)		<ul style="list-style-type: none"> ・建材 (用途) ・建具 (用途) etc. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーバー状 ・パネル状 ・直線的 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬く冷たい質感 ・表面の仕上げで変化する質感 	<ul style="list-style-type: none"> ・表面の仕上げにより変化する光沢感 ・重量感のある濃い茶色の疎らな色合い
	焼杉		<ul style="list-style-type: none"> ・防腐効果 ・耐久性 ・調湿性 ・断熱性 ・軽量 ・建材 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル状 ・木目が浮き出た模様 ・炭化した表面が作る凹凸模様 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭化した表面が作る凹凸感 ・木目が浮き出た凹凸感 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭化した黒銀色の光沢 ・疎らな黒い色味
	茅		<ul style="list-style-type: none"> ・耐水性 ・屋根材 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・束になり重なる事で作られる線材の連続 ・直線的 	<ul style="list-style-type: none"> ・茅の断面 (点) の集合が作る目が荒さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・疎らな茶～灰の色味
	銅		<ul style="list-style-type: none"> ・耐食性 ・鉄扉 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・重厚感のあるシームレスな一枚の面状 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットで滑らかな質感 ・錆びてザラザラした質感 ・重厚感があり冷たい質感 	<ul style="list-style-type: none"> ・錆びた緑青色
	鉄		<ul style="list-style-type: none"> ・安価 ・高強度 ・加工性 ・鉄扉 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・重厚感のあるシームレスな一枚の面状 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットで滑らかな質感 ・錆びてザラザラした質感 ・重厚感があり冷たい質感 	<ul style="list-style-type: none"> ・シームレスでマットな黒色 ・錆びた疎らな褐色
	土壁		<ul style="list-style-type: none"> ・調湿性 ・防音性 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットでツブツブした面 ・粒状の素材が作る小さな凹凸模様 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷たくザラザラした質感 	<ul style="list-style-type: none"> マットな黄土色
	漆喰		<ul style="list-style-type: none"> ・調湿効果 ・耐火性 ・内外装に使用可 ・吸音性 (微量) ・遮音性 ・仕上げ材 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・下地の模様を表面に見せない、シームレスでマットな面 ・左官仕上げ方法で模様を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・キメ細かくマットな質感 ・シームレスに繋がる柔らかい質感 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットでシームレスな白色
	弁柄		<ul style="list-style-type: none"> ・耐熱性 ・耐水性 ・耐光性 ・耐酸性 ・耐アルカリ性 ・塗装材 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・下地の模様を表に出した、マットな面 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットな質感 ・下地材表面の仕上げによって変わる質感 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットな弁柄色
	三和土		<ul style="list-style-type: none"> ・調湿効果 ・土間の仕上げ材として (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> ・左官仕上げによってできる凹凸模様 ・土のような柔らかい面 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットで冷たい質感 ・左官仕上げ時にできる小さな凹凸の凹凸感 	<ul style="list-style-type: none"> ・鈍い光沢 ・石や土の様な疎らな灰色・土色

分類	(名称材)	イメージ	特性			
			性能	形態・模様	質感	色味
product	簾 (竹)		<ul style="list-style-type: none"> 遮光 / 通風 可変性 透過性 日射遮蔽 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 線材の連続が作り出す模様 竹の節目が作るランダムパターン 	<ul style="list-style-type: none"> 線材の連続が作る凹凸感 竹の節目が作る凹凸感 	<ul style="list-style-type: none"> 疎らな黄色
	杉玉 (杉)		<ul style="list-style-type: none"> 神様に捧げるもの (用途) 季節の知らせ (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 丸い 線材が放射状に集合 	<ul style="list-style-type: none"> チクチクした質感 ツブツブした質感 	<ul style="list-style-type: none"> マットで鮮やかな緑 → 燻んだ疎らな茶色
	海苔網 (ビニール)		<ul style="list-style-type: none"> 可変性 透過性 瓦の剥離防止 (用途) 農業用ネットとして (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 均質なグリッド模様 	<ul style="list-style-type: none"> 線材の硬さはあるが、しなやかな質感 	<ul style="list-style-type: none"> 半透明でぼんやりとした色
	瓦 (棧瓦 / 雁振瓦)		<ul style="list-style-type: none"> 耐久性 断熱性 防音性 防火性 屋根材として (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 湾曲したシームレスな面状 波型の連続 	<ul style="list-style-type: none"> ザラザラした質感 	<ul style="list-style-type: none"> マットな光沢のあるいぶし銀の様な色
	酒・漬物樽 (木製)		<ul style="list-style-type: none"> 漬物の作成 (用途) 酒の醸造 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 湾曲した面の連続 丸い 浮き出た木目の模様 	<ul style="list-style-type: none"> 浮き出た木目による凹凸感 湾曲した柔らかい質感 	<ul style="list-style-type: none"> 燻んだ白っぽい木の色
	鹿島錦 (和紙)		<ul style="list-style-type: none"> 生地 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な幾何学模様 (菱形の連続・長方形の連続等) 	<ul style="list-style-type: none"> 柔らかい 	<ul style="list-style-type: none"> しっとりとした光沢
form	持ち送り (木製)		<ul style="list-style-type: none"> 構造 (用途) 装飾 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 木目 絵様の彫り込み 	<ul style="list-style-type: none"> 絵様を彫り込んだ凹凸感 	<ul style="list-style-type: none"> 表面の仕上げによる (磨き・弁柄・etc)
	摺り上げ戸 (木製)		<ul style="list-style-type: none"> 扉 (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 木目 グリッド状の格子模様 	<ul style="list-style-type: none"> 硬くマットな木の質感 	<ul style="list-style-type: none"> マットな重量感のある濃い茶色
	軒回り・破風・庇の 漆喰塗り込め		<ul style="list-style-type: none"> 耐火材として (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 壁から軒裏までを一体で塗り込めるシームレスな曲面 庇裏の垂木を塗り込めた波型・角形面 	<ul style="list-style-type: none"> マットでシームレスな滑らかな質感 	<ul style="list-style-type: none"> マットで鮮やかな白
	海鼠壁 (瓦・漆喰)		<ul style="list-style-type: none"> 耐火 防水 壁の仕上げとして (用途) 	<ul style="list-style-type: none"> 正方形を45度回転させた均質な菱形模様 漆喰の塗り込めが作る丸い凸の菱形ライン 	<ul style="list-style-type: none"> 瓦と漆喰を塗り込めたラインが作る凹凸感 	<ul style="list-style-type: none"> 漆喰のマットな白色と瓦のいぶし銀の様な色の強いコントラスト

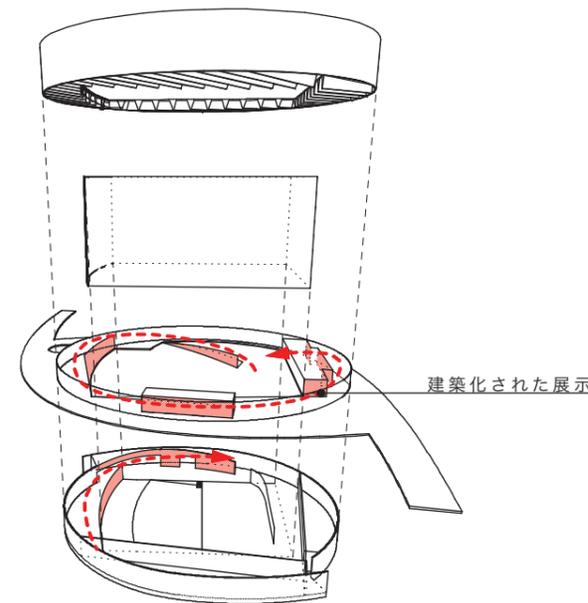
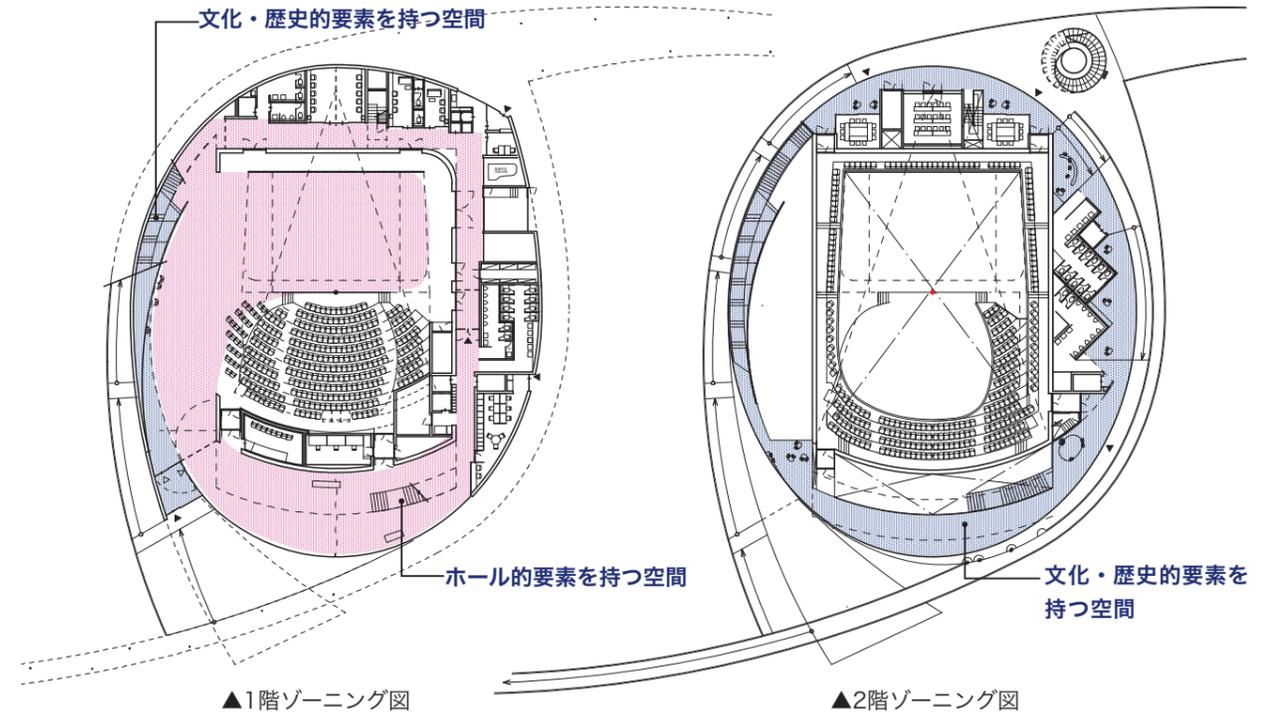
■本施設に求められる内装機能

本計画は、ホールという機能から内装計画において遮音・吸音・反射面の設定が重要となります。内装デザインを計画するにあたり、デザインと条件を下記に示します。



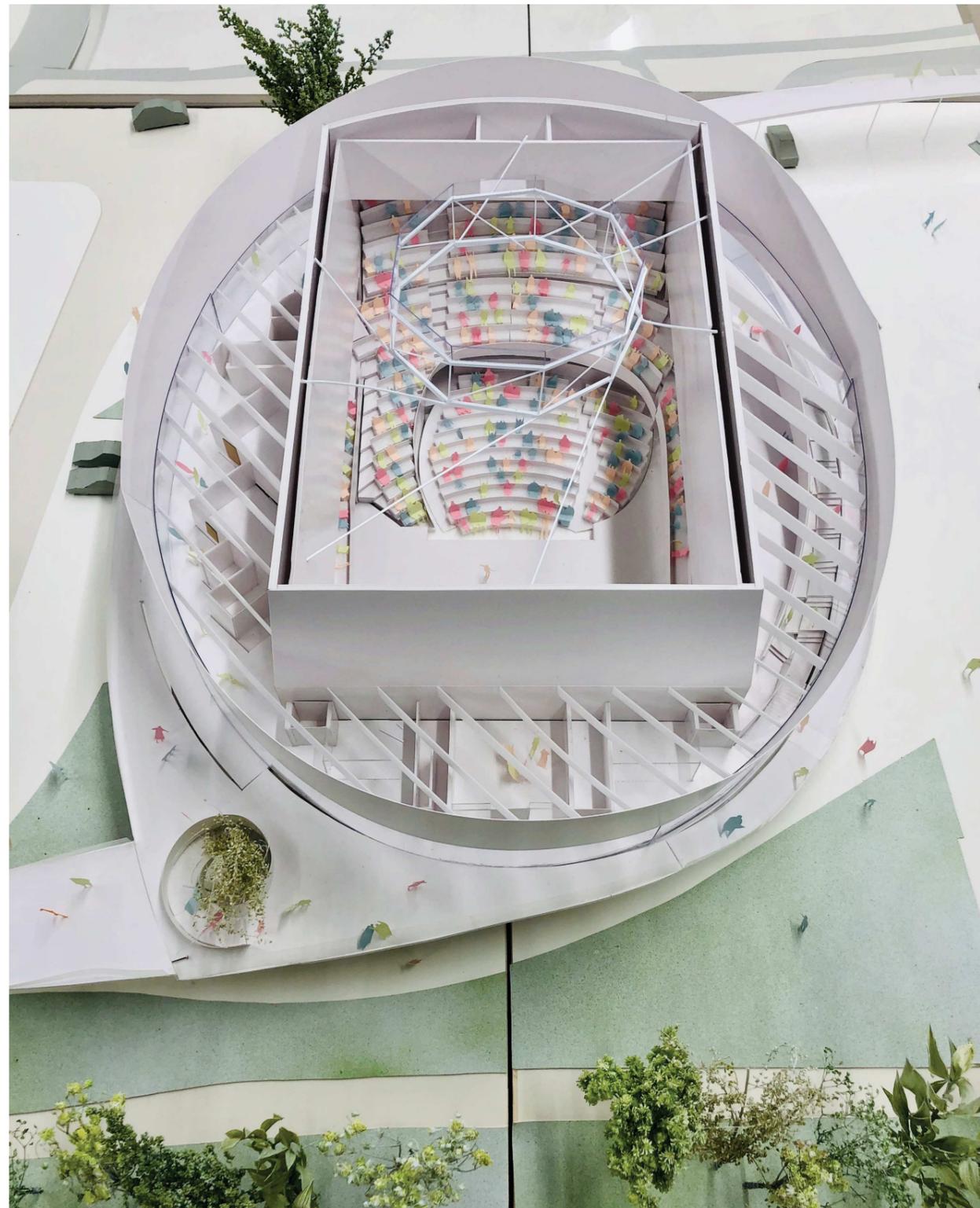
■鹿島の文化・歴史的要素が折り重なる「建物すべてがホールであり、民俗資料館」となる空間をつくる

本計画は、ホール機能と民俗資料展示の2つの機能から構成される施設である特性から、ホールの内装・民俗資料展示の内装と切り分けるのではなく、施設全体が鹿島の文化・歴史を感じられるような設えであることを目標とします。



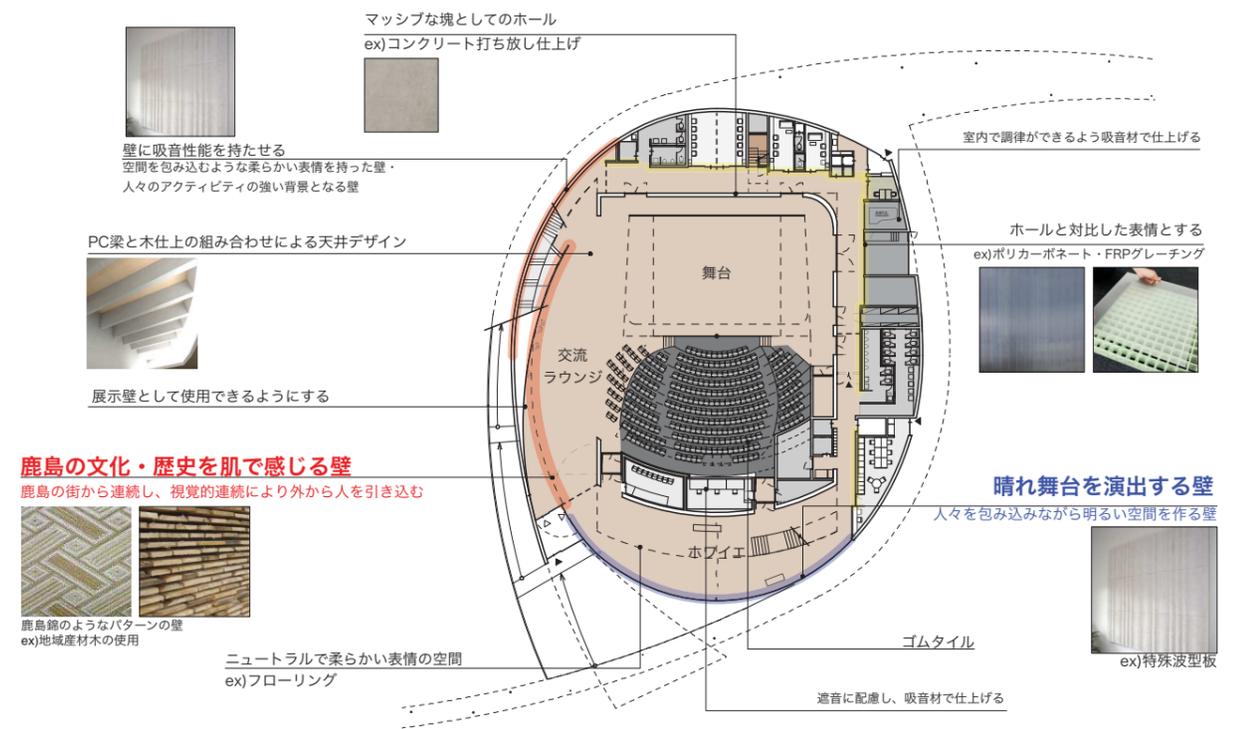
■ 鹿島の素材・伝統を生かした内装計画

鹿島の素材・伝統技術を積極的に用いた内装計画を図ります。施設内装の設えが、「鹿島の文化・歴史を肌で感じる」・「晴れ舞台を演出する」ように考えます。

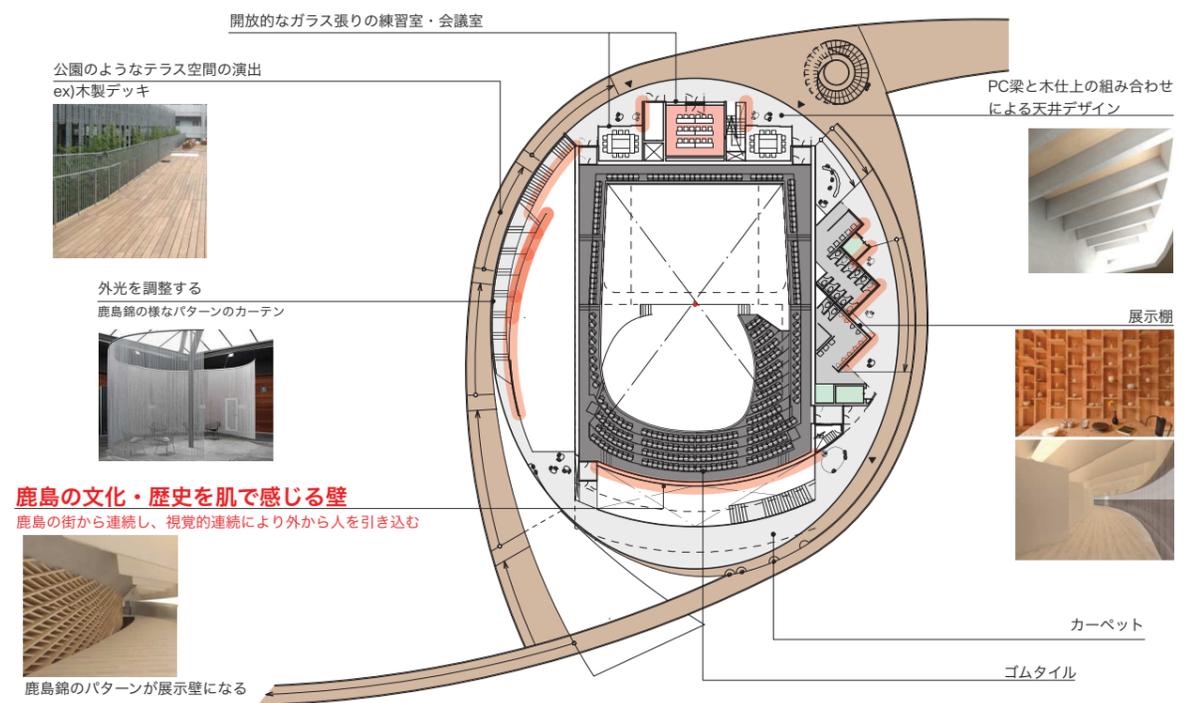


▲模型写真

I 建築計画



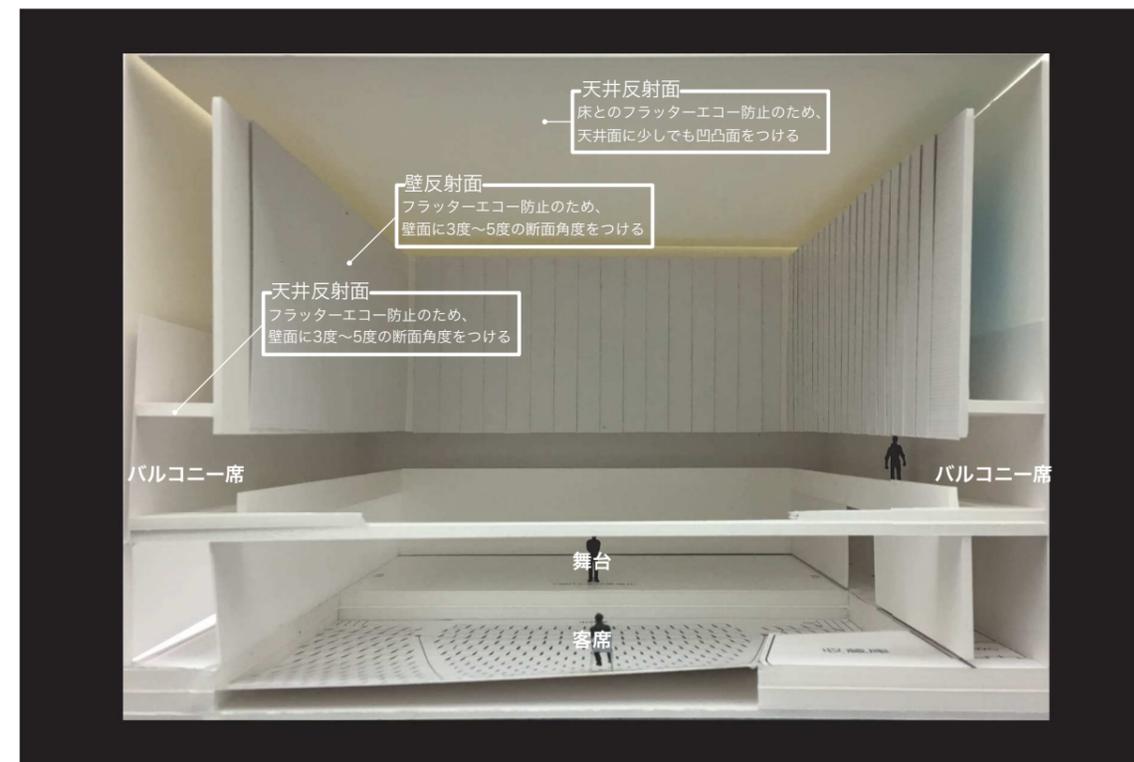
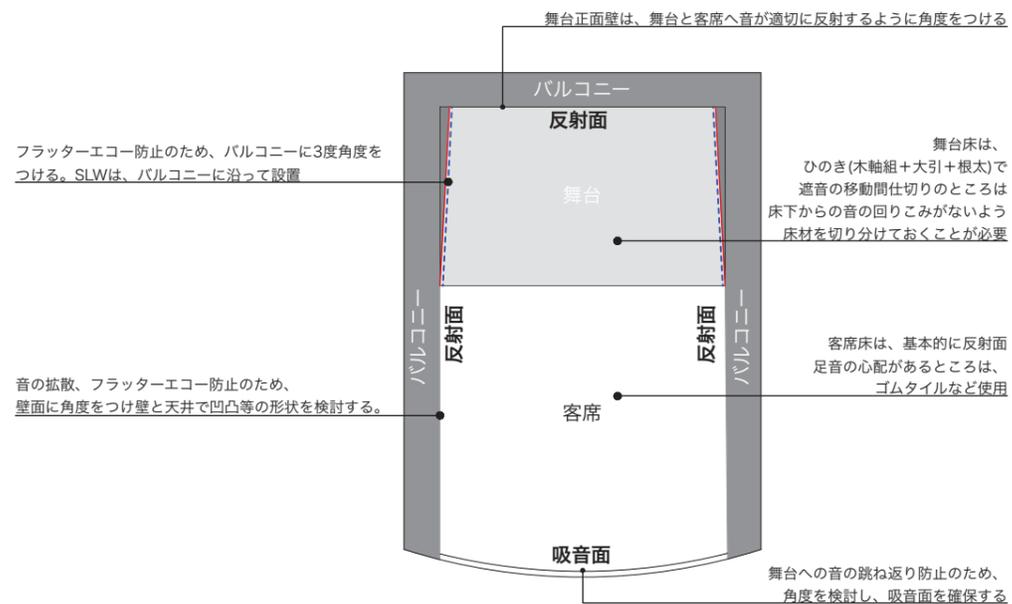
▲1階 仕上げプロット図



▲2階 仕上げプロット図

■ ホール内装計画与件

ホールの内装計画を行うにあたり、音響性能としての与条件を示す。これらの与条件をクリアした上で内装デザインを行う。



■ 自然光を取り入れたホール空間

構造をデザインし、ハイサイドライトを設け、ホールを日常から明るくし、交流ラウンジの拡張部分としても利用できるような設えます。遮光カーテンを用い、暗転することも可能です。

